

標 題 : Oleuropein, a non-toxic olive iridoid, is an anti-tumor agent
and cytoskeleton disruptor
非毒性のオリーブ イリドイドであるオレウロペインは
抗腫瘍剤であり細胞骨格かく乱物質である

著 者 : H. K. Hamdi and R. Castellon (米国 カリフォルニア州 H2RC Corporation)

掲 載 誌 : Biochem. Biophys. Res. Commun. 334: 769-778 (2005)

要 旨 :

オリーブ樹から由来する非毒性セコイリドイドであるオレウロペインは、強力な抗酸化物であり、抗血管新生剤である。

それは強力な抗癌化合物で、細胞中および無細胞試験でアクチン フィラメントを直接かく乱させると、ここで我々は示す。

オレウロペインは投与量反応性で、進行性ヒト腫瘍細胞系の増殖および移動を抑制する。

新しいチューブかく乱試験で、オレウロペインは不可逆的に癌細胞を丸くし、その複製、運動性および浸潤性を抑制した；この作用は正常細胞では可逆的であった。

自然発生腫瘍を引起すものをマウスに経口投与したときに、オレウロペインは腫瘍を9-12日で完全に退行させた。

完全退行前に腫瘍を切除したとき、それは凝集性を欠いてもろい硬さを有した。この腫瘍から生存細胞が回収でなかった。

この観察結果によって、非毒性の抗酸化物から腫瘍細胞に直接作用する抗腫瘍剤へとオレウロペインは引き上げられた。

我々のデータはまた、オリーブ油が多い地中海食事の癌予防作用を説明するであろう。

キーワード : 地中海食事、アクチンマトリゲル、ポリフェノール、エレノール酸、ヒドロキシチロソール、化学療法、腫瘍学、癌、化学予防
